

新校舎の完成目前

地域との交流も推進



栄光学園中学高等学校
副校長 林 直人さん

←(写真=建設中の新校舎を前に)

52年前、玉縄の地に開設された栄光学園の校舎が、17年4月学園創設70周年を節目に新校舎へと生まれ変わります。「新入生には何としても新しい校舎でスタートしてもらいます…」と、建設のための事業委員会の議長を勤める林さんらを中心に、建設はラストスパートです。

新しい校舎は、ウッドとコンクリートのいいところ取りをしたハイブリット型。学校の校舎としては国内でも類例のない試みで、設計は大手の日本設計・大成建設一級建築士事務所が手がけました。同事務所に勤務する同校の卒業生らが中心になって玉縄の地域に相応しい、自然との調和を重視したデザインと、防災・安全などを追求した姿を具体化しました。

東京オリンピックの競技場を設計することで話題になった、隈研吾さんも同校の21期卒業生。木とコンクリートの組み合わせの構造物に多くの実績がある同氏からも、積極的なアドバイスが寄せられたということです。

17年4月の全面完成を前にこの夏、体育館横に西棟の新校舎が完成しました。美



西棟は卒業組みの3年生が新教室で自習に励む

術、技術、パソコンなどの教室が入り「新校舎の完成を前に卒業してしまう高校の3年生たちが可愛そう」との配慮もあって一部を自習室として開放、彼ら生徒たちは一足速く快適な環境を享受しています。



2階の外壁はカラマツが使われています

「新しいこともあって、木の香りがするし落ち着きますね。勉強にも集中できるし、残り少ない期間ですが、新校舎を満喫しています」(3年生)と、晴れやかな表情が印象的です。コンクリート建築万能の時代から、木材を建築に取り戻すことで、自然と人間との調和をはかり、さらに心に潤いを取り戻そうという、木造建築物を取り入れた発想の理念が生かされているが故のことです。

注目のハイブリッド工法

自動車のハイブリッドはお馴染みですが、建築物のハイブリッド型はまだ多くはありません。隈研吾さんの手による各地の美術館や、20年の東京オリンピック新会場になる競技場はハイブリッドの象徴的建物になることと思いますが、学校の校舎としては同校が初めてといわれています。

頑強なコンクリート1階部分の上に、軽い木造建築は大きな地震の揺れに耐えます。すでに完成した西棟の室内には柱がありますが、柱の中には鉄骨が通り、まわりは木材が覆っています。これも「周りと調和させながらしっかり強度を保つ。耐震を担保する配慮から」だったそうです。

旧校舎は鉄筋3階建てが2棟ありました。新校舎は2階建てにしたため3階の不足分は、北側1棟の教室を背中合わせに2クラスずつ配置させたことで余裕の規模になりました。もう一棟は従来どおり1クラスずつが並ぶ形ですが、この校舎の特徴は9mを超え



る長大な木製の梁で組み立てていることです。この工法は橋梁につかわれる「ゲルバー梁システム」と呼ばれるもので、従来の木造学校建築より教室は広くなるだけでなく、建物全体の高さが抑えられ、筋交いもなくなるので使いやすい空間が実現するというものです。

また、教室機能の変化に対応し移設が可能で、防火上の区画を効果的に形成するので延焼などを防止することに役立つと言われます。こうした新工法に対して国土交通省が評価、「木造建築技術先導事業」として採択されて補助金の支給対象建築物になったということなのです。

建築費の増加は知恵を集めて

東京オリンピックの開催決定は、新校舎建築の費用を上昇させました。「当初は 35 億円。これならなんとか自己資金で賄えそう」とスタートしたものの、資材高騰の波が押し寄せ「現状では 40～50 億円の資金が必要になった」そうです。不足分は国の補助金に恵まれたことに加え、一部借入金はあるものの卒業生をはじめとした協力・協賛による寄付金などによってメドをつけました。



栄光坂を行き来する同校生徒の姿は、若者たちの活気を玉縄地域にもたらしてくれていますが、横須賀の田浦から栄光学園が現在の玉縄の地に移ったのは 1964 年です。防衛省の要請等があった田浦からの移転と伝えられていますが、大船開校当時は玉縄台への切通しは整備さ

れておらず、生徒たちは大船駅から一山越えての通学がかなりの期間続いたそうです。

創設 70 周年のうちすでに玉縄の地に移って 52 年になりますが、所在は玉縄であっても、東大合格者では上位 10 校に入る常連校、その勇名は全国区です。生徒も電車を乗り継いだりして遠方から通います。そんなこともあっ



てか、「地域の密着と言う点ではなかなか行き届かないこともあった」というのが実情といえます。



林さんも同学園に勤務して 30 年余。「私もかつては関谷に住んでいたし、いまでもクラスの何人かは玉縄、関谷、植木卒業生」と、地域とかかわりは深まります。数年前から文化祭や運動会など学校行事を地域に開放し、最近では周辺の住民が栄光祭などの文化的行事を楽しんでいます。新校舎の完成は地域との交流を一

層深めていくことにもなりそうです。

(イラストは完成予想図=2016 年 9 月)

法人名は学校法人「上智学院」に

栄光学園中学高等学校を運営する学校法人「栄光学園」は本年 4 月、カトリックイエズス会を経営母体とする 5 つの学校法人の合併にあわせ栄光学園を解散、新たに学校法人「上智学院」として新発足しています。新法人の本部は東京・千代田区に置かれていますが「上智大学の付属になったわけでもありませんし、合併前のそれぞれの教育方針は継続しています。栄光をはじめ各校はその歴史と地域性を配慮しながら、さらに幅広いネットワークを生かし、学校経営の効率化をはかる」(林直人副校長)ことにしています。